

## 令和2年度 河川及び主要水路水質検査結果

調査日時: 令和2年8月5日

※数字の前に「<」がついているのは定量下限値未満であることを示し、着色部は環境基準(AA類型河川)を満足しない数値を示します。

調査地点			採取時間	天候	水素イオン 濃度(pH)	生物化学的酸素 要求量(BOD)	浮遊物質量 (SS)	大腸菌群数	溶存酸素 (DO)	全窒素 (T-N)	全リン (T-P)
番号	河川名等	採水箇所									
1	寺沢	明科南陸郷 金山神社東合流	9:45	晴れ	7.8	< 0.5	5	2,400	8.0	0.41	0.029
2	寺沢	明科南陸郷 犀川河口前	9:30	晴れ	7.9	0.7	9	5,400	8.3	0.59	0.044
3	会田川	明科中川 R19 会田川橋下 手・東川手 流	9:00	晴れ	8.6	0.9	5	940	8.3	0.37	0.023
4	中央用水	明科中川手 会田川合流前	9:05	晴れ	7.7	1.0	21	17,000	9.3	1.60	0.089
5	内川	明科七貴 犀川河口前	10:05	晴れ	7.5	0.8	10	3,500	8.9	0.82	0.043
6	黒沢川	三郷温 真々部山道橋下流	11:25	晴れ	7.3	0.6	2	1,700	8.5	0.30	0.015
7	奥沢	豊科光 藤松一郎宅前	8:45	晴れ	8.2	0.5	14	2,400	8.6	1.50	0.02
8	拾ヶ堰	豊科高家 取入口	12:05	晴れ	7.2	0.8	19	2,200	9.0	1.70	0.048
9	勘左衛門 堰・新田堰	豊科高家 取入口	11:50	晴れ	7.7	0.7	25	540	9.1	0.39	0.045
10	中萱堰	豊科高家 松尾恒忠宅前	11:40	晴れ	7.6	0.5	41	220	9.6	0.30	0.051
11	穂高川	穂高有明 一の瀬橋下流	12:50	晴れ	7.6	0.5	1	2	8.9	0.11	< 0.003
12	穂高川	穂高北穂高 三川合流	10:20	晴れ	7.3	< 0.5	7	9,200	9.0	1.00	0.042
13	大堰	穂高有明 取入口	12:05	晴れ	7.2	< 0.5	28	1,600	8.5	0.44	0.02
14	天満沢川	穂高有明 天満沢橋上流	12:20	晴れ	7.3	< 0.5	3	49	8.7	0.23	0.003
15	権田川	穂高北穂高 穂高川合流手前	11:20	晴れ	7.0	< 0.5	2	9,200	9.5	1.40	0.030
16	両町幹線	穂高 放流口	11:05	晴れ	7.0	< 0.5	17	1,700	8.6	1.10	0.079
17	芦沢	穂高牧 穂高悠生寮南	9:45	晴れ	7.3	< 0.5	3	240	8.3	0.32	0.028
18	川窪沢川	穂高牧 共和興業(株)東	9:30	晴れ	7.4	< 0.5	32	5,400	8.6	0.54	0.036
19	拾ヶ堰	穂高 上原橋上流	9:15	晴れ	7.4	0.5	28	920	9.1	0.74	0.082
20	欠の川	穂高 下橋下流	10:35	晴れ	7.0	0.5	10	9,200	9.3	1.40	0.048
21	万水川	穂高 等々力橋上流	10:45	晴れ	6.8	0.5	19	4,600	8.6	1.60	0.062
22	高瀬川	穂高北穂高 青木花見工業団地 排水口下流	11:45	晴れ	7.6	0.7	10	540	8.3	0.63	0.038
23	拾ヶ堰	堀金烏川 あづみ野排水路合 流	10:40	晴れ	7.2	0.6	38	1,700	9.1	1.00	0.064
24	烏川	堀金烏川 銚子口	10:15	晴れ	7.5	< 0.5	< 1	33	9.8	0.12	0.009
25	新堀堰	堀金三田 田多井公園北	11:00	晴れ	7.7	0.6	18	2,400	9.0	0.39	0.039
26	鳴沢川	堀金三田 堀回堰合流手前	11:10	晴れ	7.5	0.6	7	1,100	8.3	0.32	0.026
単位					—	mg/L	mg/L	MPN/100mL	mg/L	mg/L	mg/L
環境基準(AA類型)					6.5~8.5	1以下	25以下	50以下	7.5以上	—	—
					水中の水素イオン濃度を示す尺度で、pHが7の時は中性、これより高い場合はアルカリ性、低い場合は酸性を示します。	水中の有機物を栄養源として微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素の量であり、値が高ければ水中の有機物が多いことを意味し、水質汚濁を示す代表的な指標となっています。一般的には下流域程、数値が高くなる傾向が見られます。	水中に懸濁している不溶性物質で、清冽な河川では微細な有機物や粘土成分により構成されますが、汚濁の進んだ河川では有機物の比率が高くなります。また、浮遊物の量は水の濁り、透明度などにも影響を与えます。	大腸菌は主に人や家畜の腸管内に生息する細菌であり、これが水中に存在することは、下水などの流入により汚染されていることを意味します。ただし、大腸菌「群」には大腸菌以外の菌も含まれており、特に自然界の土壌中に多く存在する菌種が検出されやすいことから、糞便による汚染がなくても基準値を大幅に超過するケースがしばしばみられます。	DOはDissolved Oxygen(ディソルブド・オキシゲン)の略で、水の中に溶け込んでいる酸素の量のことです。水の中の生き物が生きる上で欠くことのできないもので、きれいな川の水には、1L中に7~14mgほど溶け込んでいます。逆に、有機物が多くなり、汚れが進むと濃度は低くなります。なお、水温が低いと酸素は水に溶けこみやすくなり、水温が高いと溶け込みにくくなります。	全窒素とは、水中に含まれている総窒素濃度のことをいいます。水稲育成に対する障害は、1mg/L以上とされていますが、5mg/L以上になると大きな障害がおこるとされています。H19年度から新規(県平均1.3ml/L以下)	りんは窒素と共に富栄養化の原因物質であり、湖沼やダム等では藻類等の増殖を助長させ、水質悪化を引き起こします。平成19年度から新規(県平均0.079ml/L以下)